

多久市コミュニティ・スクールがスタートしました!

多久市では、平成27年度から2年間の文部科学省「コミュニティ・スクール導入等促進事業」の委嘱を受け、準備期間1年を経て、平成28年4月に市内の小中一貫校3校を「コミュニティ・スクール」に指定しました。そして、第1回学校運営協議会を5月11日に3校合同で開催し、各学校のコミュニティ・スクールが本格的にスタートしました。

○コミュニティ・スクールで

学校はどう変わるの?

これまででは、各学校に「学校評議員会」がありましたが、これから法的な権限と責任を有する「学校運営協議会」に変わります。これにより地域の人が学校運営に参画し、学校教育活動への支援体制を整え、地域とともにある特色ある学校としてスタートします。そして、これまで支援・協力をいただいていた地域のみならず、「学校応援団」としてこれまで以上に関わっていただきます。

今後も「怒の心」と「生き抜く力」の育成を目指して、「地域とともにある学校づくり」にご支援・ご協力をお願いします。



◆今後の教育行事のお知らせ

- 多久市小中一貫教育研究会 11/11(金)、東部校会場
- 多久市論語カルタ大会 11/23(水・祝)、東部校体育館
- 多久市教育の日 12/3(土)、各学校

◆学校長、副校長、教頭の紹介・児童生徒数

| 学校名 | 校長 | 副校長 | 小学校教頭 | 中学校教頭 | 小学部、中学部(計) |
|-----|-------|-------|-------|-------|--------------------|
| 中央校 | 峰 茂樹 | 福田 健成 | — | 鳥谷 功治 | 小548名、中296名(計844名) |
| 東部校 | 古賀 一哉 | 釘本 浩 | 橋口 孝浩 | 福山 信正 | 小234名、中111名(計345名) |
| 西溪校 | 吉崎 泰 | 森 博茂 | 田代 豊樹 | 富永 俊則 | 小175名、中116名(計291名) |

■問い合わせ

教育委員会 学校教育課

☎75-2227

温故創新

市長コラム Message for citizen

熊本地震続報く被災地・西原村を訪ねて

市長 横尾 俊彦

5月14日、余震の続く熊本地震被災地、阿蘇郡西原村を訪ねました。ここは佐賀県と県内市町が協力して支援しています。コンビニも営業中で、パッと見では被災地?と思う程ですがそこかしこにブルーシート屋根が目立ちます。2つほど角を曲がると、傾いた家、損壊した壁など、光景が一変します。

ガレキ処理場では多久市職員が他自治体メンバーと一緒に頑張っており、声掛けだけでなく実際にガレキ作業を手伝いました。暑さと埃も多い現場。それでも受け入れの最初から、広いグラウンドに品目ごとの分別位置を指定して集める手法は効果的です。東日本被災地の経験と知恵が生きています。

役場隣の支援物資センターは整然と品揃え。「必要なものを持って行って下さい。多量は困ります」旨の張り紙も。子供のお菓子、乳児の食品、大小のおむつ、衛生用品等が並んでいます。「最も必要なのは飲料水」とも。水道は仮設で復旧、でも飲用ではないのです。暑くなる時期で今後は需要が増えそうです。

西原村の日置村長の話を伺いました。「最大被害の集落では30戸のうち2戸を除き全壊。生き埋め者が9人発生。でも地元住民の協力で全員救出」とのこと。互助共助は大切です。

河原小学校の避難所にも足を運びました。優れた消防団幹部OBリーダーのもと整然と避難所運営中です。「感染症を1人も出さない」を目標に日々環境を改善し、「仮設住宅入居の2・3か月先まで皆で明るく頑張ろう」の態勢。地区在住の看護師さんは発災時には技能を活かし手当にあたったそうです。できることをできる人が担って支え合うことの重要性が光ります。

教えられることの多い被災地訪問でした。多久市や佐賀県の防災力向上に更に努力します。雨季になりますからご用心。

